

日本社会薬学会北海道支部 平成 20 年度総会並びに第 1 回例会 活動報告

北海道支部事務局 櫻井秀彦

平成 20 年度支部総会

平成 20 年度日本社会薬学会北海道支部総会は北海道薬学大会の一環として、5 月 11 日（日）午前 10 時から行われ、副支部長の遠藤恵美子先生（㈱ほくやく）の開会の辞に続いて、早瀬幸俊先生（北海道薬科大学）の支部長挨拶で始まりました。報告として、①平成 19 年度の活動報告、②平成 19 年度会計報告が、議事として③平成 20 年度事業計画・予算、④役員改選、⑤その他が討議されました。①活動報告では、事務局の櫻井より、昨年度行われた 2 回の例会について報告がなされました。まず、第 54 回北海道薬学大会での第 1 回例会では、各部会との合同でのポスター発表が、昨年度は新たに北海道病院薬剤師会の参加も得て行われ、計 41 演題の発表があり、記名いただいた参加者だけでも 500 名を超えるなど、非常に盛況であったことが報告されました。次に第 2 回例会は、平成 20 年 1 月 27 日（日）の 14:00 から、北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにて、「薬局マネジメントスタッフ全員で取り組む服薬指導の在り方と薬歴管理」と題して、21 名の参加を得て、講演とワークショップ形式で行われたことが報告されました。この例会に関しては岡崎光洋先生（北海道薬科大学）と中本祥子先生（(有)ポスト）に企画委員をお務めいただきました。参加者へのアンケートからは、特にワークショップ形式での実施が好評だったことが伺えました。②平成 19 年度会計報告では、中本祥子先生（(有)ポスト）より、当年度は年会など特に大きな行事がなかったため、例会の講師料や消耗品費を含め、学会本部からの年度支部活動費内での決算であったことが報告され、山下 隆 監事の監査報告もなされました。③平成 20 年度事業計画・予算では、昨年度、岡崎光洋先生と中本祥子先生にお願いしていた第 2 回例会の企画担当委員を、今年度は和田啓爾先生（北海道医療大）にお願いし、実施段階では吉村昭毅先生（北海道医療大）、本間克明先生（㈱ファーマホルディング）、中本祥子先生にも、お手伝いをいただくことになりました。また、第 2 回例会だけでなく、予算の関係も含め、来年度の薬学大会における特別講演などの実施の可能性も検討いただくことになりました。④役員改選では、今年度は支部役員の改選期であり、幹事会を通じて何人かの幹事の交代が諮られました。計 4 名の幹事の交代ならびに新規就任が了承されました。⑤その他については、永年日本社会薬学会で活躍され、北海道支部の設立、発展にご尽力いただきました、板谷幸一先生、吉沢逸雄先生の両顧問には名誉会員になっていただくことを、昨年 of 全国大会での総会で支部長を通じ提案し、承認されたことが報告されました。最後に、和田啓爾副支部長の閉会の辞で総会は終了いたしました。

平成 20 年度第 1 回例会

日本社会薬学会北海道支部では、例年 5 月に行われる北海道薬学大会の中で、第一回支部例会を開催しています。平成 17 年度より、北海道薬剤師会・薬局部会と合同で発表が行

われるようになりました。今年度は、会場が札幌市教育文化会館から、札幌コンベンションセンターに変わり、合同ポスター発表では、日本薬史学会北海道支部、北海道病院薬剤師会の参加も得て、計 43 演題の発表がありました。このうち、薬局部会と社会薬学会道支部では、23 演題の報告がありました。報告内容は (A) 服薬指導や、在庫管理など薬局実務に関する報告や、(B) 調剤過誤防止、(C) 患者調査から (D) 教育・研修、(E) 医薬・産学連携に関するものまで、社会薬学の名が示す通り、幅広いテーマでの発表がありました。特に大学からは薬学教育 6 年制を受けて、新たな取組事例やその評価に関する報告が多くありました。以下、概要を紹介します。

(A) 薬局実務では高齢者や小児、喘息や骨粗鬆症患者への服薬指導の取組に対する評価や実態調査の報告、後発医薬品の処方せん様式の変更に対する薬局の対応、薬品自動発注システムの評価などが報告されました。(B) 調剤過誤防止では、インシデントレポートの活用や、薬局スタッフへの過誤防止に対する意識アンケートの解析が報告されました。(C) 患者調査では、医療サービス品質評価の観点から分析されたものや、患者と提供者側である薬剤師との意識の違いを統計的な比較を行った報告がなされました。(D) 教育・研修では、地区勉強会や大学が提供する学びなおしプログラムの取組についての報告の他、大学での新たな教育手法や教育改善策の評価が数多く報告されました。(E) 医薬・産学連携ではエゾウコギを用いた健康食品の安全性に関するもの、大学の医薬情報室のあり方に関するアンケート調査や薬局や薬剤師の活動支援に関する事例報告などがなされました。

来場者は記名を頂いただけでも 400 名を数え、13:30~14:30 の示説時間以外にも、朝早くから、各部会の空き時間を利用して多くの方に来場いただいたようです。日本社会薬学会北海道支部では、来場者がより多くの発表に接する機会を増やせるよう、今後も時間の制約がそれほど大きくなく、十分な討議が可能であるポスター形式での発表を継続していこうと考えています。会場設置のポスターボードの数には余裕があり、更に広い会場の確保が可能ということですので、来年度も多くの先生方の来場と多数の発表を期待しています。(次頁に例会の写真を添付します)

